教育的価値	具体の項目	教育課程
2【かかわる】	④【復旧・復興へのあゆみ】震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【題材】「郷土学習を通して震災津波後のふるさとへの理解を深め、主体的に復興・発展を支える人になろう」

視点 1 地域の自然災害の歴史を学び、復旧・復興に携わった人々を知ろう (過去・人物 「生きる」)

2 郷土芸能の伝承活動から、文化への誇りを育てよう (現在・心 「人づくり」)

3 「水産教室」の学習から、地域漁業の復興と未来を考えよう (未来・産業 「働く」)

【対象】 全校生徒 (1年18名 2年25名 3年27名 計70名)

【実践の概要】

5月18日 (土) 運動会での郷土芸能伝承活動披露 (三陸総合運動公園グラウンド)

◇ 地域の方から郷土芸能を学ぶ中で、地域文化を理解させ、郷土への誇りを育てる。

4月26・30日 男子剣舞面作り・女子烏帽子作り

指導者 剣舞面作り:尾坪慶孝氏 新沼英二氏 笛:熊谷常孝氏

4月30日~5月16日 男子剣舞練習・女子ささら踊りと笛の練習

指導者 剣舞:畑中道之氏 村上芳春氏 佐々木信浩氏

ささら:熊谷喜一氏

5月13日 運動会招待状の作成、生徒会執行部による地域の老人施設と仮設

住宅への配布

5月18日 運動会で地域への披露 (大船渡市三陸総合運動公園 多目的運動広場)

発表協力者 剣舞:野形剣舞保存会

ささら: 舘脇一人氏 澤幹夫氏 他 白浜地域の方々

地域の方々





父も中学生の時に剣舞 を踊ってきた。今度は僕 たちが引き継いで踊る



1年男子の面づくり



女子「ささら」踊り



男子「野形剣舞」

男子の剣舞夜練習



運動会の招待状

〈感想〉

- ・ 今日の運動会では、今まで取り組んで来たことをしっかり出し切ることが出来てよかった。剣舞の面づくりや踊り方など、 地域の方々や先輩が教えてくれたことに感謝すべきだと思った。
- 今日は立派な運動会になってよかったです。地域の皆さんや指導者の方々、先生方に感謝の気持ちをもって踊れました。

9月5日(木) 復興教育講話

◇ 郷土の自然災害の歴史を学ぶ中で、地形的特徴や災害の特徴を捉えさせる。また、過去の災害の復 旧・復興に携わった先人の思いや津波記念碑に込められた思いをくみ取らせ、東日本大震災での経験と 照らし合わさせながら、復興を担う意欲と減災・防災への心構えを育成する。

13:35~14:30 復興教育講話「東日本大震災に学ぶ」を聴講

講師:西村輝夫先生(三陸教育施設運営会理事長、元三陸町教育長)

14:50~15:25 学んだことを振り返りまとめる



1 日本は災害の多い国

7 残念無念だったこと

2 津波の歴史

8 津波後これだけはよかった

3 津波もいろいろ

9 絆いろいろ

4 貝塚はどんなところにあるか 10 出会いの不思議

5 先人に学ぶ

11 災害後の足下 (雑草) に学ぶ

6_津波記念碑に学ぶ ___

12 私たちに課せられたものは

〈感想〉

- 震災から2年が経ちました。でもあの頃のことは覚えています。たぶん一生忘れられないと思います。 この先子どもが出来たら、今日の講話の内容を教えて伝えていきたいと思っています。
- 雑草のように苦しいことに負けず生きていき、大人になっても、子どもや子孫に伝えていくことが 一番大事だと思いました。
- 昔の津波や東日本大震災のことについて詳しく知ることが出来ました。昔から沿岸部は津波の大き な被害を受けていて、昔の経験を生かしていたらもう少し助かったかもしれないと、少し残念に思い ました。この震災のことを少しでも生かせるように、津波記念碑を目立つところにつくったり、次の世代にも伝えたり することが大事だと思いました。そして、大変なときこそ人々と助け合う大切さを改めて学びました。
- 今日は日本の災害や津波のことを詳しく知ることが出来ました。津波について知っておくことは大事だけど、その知識 を実際に活用しなければならないということを強く思いました。災害の後は、昔の人のようにお互いに助け合っていくこ とが一番だということが分かりました。

10月10日(木) 少年水産教室 (綾里漁業協同組合大会議室)

◇ 綾里の水産業の現状や海の復旧状況を学ぶ中で、復旧に努めた方々への感謝の気持ちを育て、洋上で の漁業作業の見学を通して水産業に携わる方々の生き方を学ばせる。また、恵まれた自然の中で次代の漁 業を担い、地域産業の復興、発展に資する気持ちを育成する。

9:00~ 9:10 1 開校式

9:10~9:45 **2** 地域漁業講話 講師:佐々木靖男氏(綾里漁業協同組合代表理事組合長)

9:45~10:00 **3** ビデオ視聴「再生の海」佐藤寛志氏(みちのくダイビングリアス)

く 2・3年は小石浜漁港へ移動>

10:15~11:45 4 洋上見学…2年「ホタテ養殖見学」講師:佐々木淳氏他

…3年「定置の網おこし見学」

講師:綾里漁協青壮年部 指導漁業士・青年漁業士

11:45~12:00 **5** 2・3年 … 閉校式 (小石浜荷捌き場)

9:00~10:00 開校式・地域漁業講話と震災後の海岸や海中のビデオ講話



1 綾里の漁業の形と漁の紹介 2 養殖ワカメの生産工程

3 養殖ホタテの生産工程

「 綾里の水産業の復旧・復興は進んでいる。海という大自然の中での仕事は確か に厳しい。しかし、本気で漁業に取り組むなら、こんなに魅力のある仕事はない。」



ビデオ講師 佐藤寛志氏(左)

講師 佐々木靖男組合長

〈感想〉

今日の講話を聞いて、震災で魚などの取れ高が少なくなりましたが、少しずつ復旧していることや、ホタテやワカメの収

穫までの行程が分かりました。ビデオで、協力して綾里の復旧作業を行っている光景を見て、私も綾里が早く元通りになるように、進んで地域の取組に参加したいと思いました。

- ・ 私の祖父も漁師をやっています。いつも朝早くから昼過ぎまで仕事をして家族のために頑張っています。改めて尊敬する気持ちをもちました。今回教えてもらったことを心の中にしまい、綾里の復興のために頑張っていきます。
- ・ 震災後の地域を撮ったビデオで、私たち子どもは何も出来ずに家などにいた時も、漁師の方々など大人の皆さんが、早く 漁業を復活させようと片付けなどして働いている姿を見ました。これから綾里をもとに戻すため、私たち中学生に何が出来 るかを考えていきたいと思いました。
- ・ 「みちのくダイビングリアス」さんの震災後の川や海を撮ったビデオを見て、海岸や海の中のがれきを片付けてくださった のは、地域の漁業に携わる人たちや外国のボランティアの方々だったと分かりました。本当に感謝しなければと改めて思い ました。
 - ◇ 2年生…栽培漁業であるホタテ養殖施設の復旧の様子や収穫までの工程の学びから、地域産業を理解させ、復旧・復興を後押ししようとする意欲をもたせる。

10:15~11:45 2年…ホタテ養殖栽培見学(小石浜漁港→洋上:養殖施設→小石浜荷捌施設)





〈感想〉

・ 震災から2年半たって、漁を再開して出荷できるものが増えていることや、海で仕事をするということはとても厳しいことが分かりました。船に乗って養殖施設を見



学して分かったことは、種から大きくなるまでにとても時間が かかっているということです。ホタテを育てるのはとても大変 だなあと思いましたが、出荷が出来るようになって本当に良か ったと思いました。

- ・ ホタテは大きくなるまでにとても時間がかかることを学びました。最初に見た稚貝は小さくてかわいかったのですが、その後に見たホタテは大きいし重いので、つながっているホタテのロープを持ったとき海に落ちそうになりました。僕も大きくなったら漁師になりたいです。
 - ◇ 3年生…定置網漁場に移動し、網おこしの作業の見学 学習。水産に関する初歩的知識の学習と共に震災から



復活 海の学び場 🅍

後初の漁業体

強之老肌で実務した。 震災前の3割はどだ 3年生は定置協の が、漁業者たちは体験 3年生は定置協の が、漁業者たちは体験 1 かくのはえ縄ローブを 佐々木淳ホタテ部長は 引き上げた 指先はど 一震交(何もかもが駄の和員が2年間に大き 目になったが、乗り組の が、漁業を再生に伝えた (第七年との存在と表析り、 えて二気に値をしてい、 発の両を上げた。 ることを生徒に伝えた (条件) かった。 待ち、将来携わってくると、チルとんら年、 れればい」と振う。

を表しています。 できます。 を表しています。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できまする。 できます。 できまする。 できます。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 をきます。 できます。 できます。 をきます。 をきます。 をきます。 をきます。 をきます。 をきます。 をきまする。 をきます。 をきます。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきます。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまする。 をきまる。 をきまる。 をきまる。 をきまる。 をきまる。 をきる。 をもる。 をも

11:45~12:00 2:3年…閉校式

〈感想〉

・ 網おこし見学では、捕ま えた魚を船に上げた時は本 当に迫力があって、見てい てとても圧倒されました。 お金を稼ぐってこういうこ となんだと思いました。

図に夢や希望をもたせる。







・ 震災を経て、たくさんの人たちの協力で今の自然豊かな綾里の海があると知ることが出来ました。実際に沖に出てきれいな海を見たとき、ここまできれいにしてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからは私たちが豊かな自然あふれる綾里の海を守っていきたいと思います。

の復旧の現状を知り、地域漁業への理解を深めさせる。また、復興にかかわる生き方を考えさせ、ふるさとの未来

10:15~11:45 3年…定置の網おこし見学(小石浜漁港→洋上:清水の輪→小石浜荷捌施設)

- ・ 洋上見学では、普段見ることの出来ない漁の様子を目の前で見学できました。この2年半でどのくらい復興したかということが分かり、復興に向けて頑張っている漁師さんの姿を見て感動しました。
- 11月11日(木) 1年生 少年水産教室 「新巻鮭づくり①」 (綾里漁業協同組合荷捌き場)

◇ 地元で捕れた鮭で「新巻鮭づくり」を体験させ、漁業や水産加工を身近に捉えさせると共に、地域の 食文化への理解を深めさせ、水産業の復旧、復興に積極的に携わろうとする意欲をもたせる。

13:30~14:50 1年…開会行事【綾里漁協青壮年部会長 小向周一氏挨拶】

新巻鮭作り 講師:綾里漁協青壮年部 8名

15:10~15:35 感想を書く

〈感想〉

今回初めて「新巻鮭作り」をしました。鮭を触るのも切るのも全部が初めてで、緊張やどきどきや不安でいっぱいでした。やってみると骨は固くて切れないし、水は冷たいし、自分一人でやるので精一杯でした。でも切り込みを入れてもらって出来たときはうれしかったです。

・ 秋田の方でハタハタの加工を見たことがあります。新巻鮭と同じ ようだったので、このやり方は全国で使われているんだと思いました。





11月15日(金) 1年生 少年水産教室 「新巻鮭づくり②」(荷捌き場)

13:55~14:25 新巻鮭の仕上げ 1年…閉校式

〈感想〉

- ・ 私たちが水産教室をできたのは、海岸や川のがれきを撤去してくださった方々や、漁協さんと一緒に荷捌き場を建てるために支援して下さった方々がいたからです。川がきれいでなかったら鮭は綾里に帰れなくて、荷捌き場がなかったら今年も水産教室はできなかったはずです。また、鮭は大きくてびっくりしたし、鮭たちが綾里川に無事に元気に帰ってきてくれてありがとう、という気持ちになりました。これからの綾里や漁業の復興のため、川を汚さないなど今の私たちにできることに全力で取り組みたいです。
- 今思えば、あの震災から2年8か月経っています。震災で漁業の施設も船も何もかもなくなってしまいました。荷捌き場 や鮭ます孵化場なども大きな被害を受けました。しかし、今回荷捌き場はとてもきれいに建て直されていました。支援をい ただき、漁業者の皆さんが震災に負けなかったからだと思います。これから先もずっとこのことを忘れないようにし、そし て、自分でも他の被災者の方々に何ができるかを考えて生活したいです。
- ・ この水産教室が数年ぶりに行われると聞き、綾里は復興が進んでいると感じました。また、鮭の加工をしながら、鮭は日本と関わりが深いのだなと感じました。また、新巻鮭は綾里になじみ深い食べ方であると知りました。作るのは手間も時間もかかりますが、それだけの価値がある、と自分の作った新巻鮭を食べて思いました。この体験を将来に役立てたいです。
 - 11月22日(金) 岩手県中学校総合文化祭において「野形剣舞」発表 (岩手県民会館大ホール)
 - ◇ ふるさとの郷土芸能の伝承活動を通して地域の方々の「野形剣舞」への誇りと熱意に触れ、自分も 地域の一員であるという自覚や、地域を愛し、地域の方々と一体となって地域文化を支えていこうと するたくましい気持ちを育てる。

1 1月5日 (火) ~11月20日 (水) 19:30~21:00 剣舞・笛の練習 指導者 畑中道之氏他 野形剣舞保存会

11月22日(金) 第12回岩手県中学校総合文化祭で発表 (有志18名 岩手県民会館)

〈感想〉

- ・中学校生活最後の剣舞の本番はいい踊りができたと思います。練習の時1年が加わったので踊る位置も変わり、踊りがそろわず体も思うように動きませんでした。一生懸命に踊っても、保存会の方々から怒られてばかりでした。今思うと、僕たちにきちんとした野形剣舞の踊りを受け継いでほしかったからだと思います。だからあんなに真剣に教えて下さったのだと思います。
- ・野形剣舞はずっと保存会の人から男子中学生が教わり、僕も頑張ってきました。れからもずっと後輩達が私たちの分まで踊り、野形剣舞の踊りと伝統を受け継いでほしいです。



まとめ

- ・ 過去の震災津波や先人の生き方を知るにつれ、命の大切さを再確認し、教訓として得た減災 や防災への取り組みを生活の中に生かして次世代に語り継ごうとする気持ちを育てることがで きた。
- ・ 郷土芸能の伝承活動を通し、指導者とのコミュニケーションを深めながら地域文化への誇りをもつことが出来た。地域を愛し、互いに思いやりをもって力を合わせて生きていこうとする 気持ちや、郷土の文化の担い手となろうとする自覚を強くしている。
- 震災後中断していた水産教室の再開により、生徒達は地域産業の復旧状況を実感している。 また、復興を目指して働いている人々と接する中で、恵まれた自然環境を再確認し、ふるさと の未来図を描く中で、自分も復興を支える一員になるために今できること、やらなければなら ないことを具体的につかみ取っている。
- ・ 次年度は、地域の震災復興委員会、復興支援団体等と連携し、生徒による震災津波の調査活動を通じて「思考力・判断力・表現力」の形成を図りつつ、未来に向かう「生きる力」の育成を図りたい。

地域の方の感想

- ・ 震災津波は地域水産業等に大きなダメージを与えたが、この復興教育を通して、子ども達に地域産業の未来につながる光を見つけてほしいと願う。地域の復興は、ふるさとを愛しふるさとで生きる人間をいかに育てるかにかかっている。自分達大人も頑張りたい。
- ・生徒たちは震災経験を通して辛い思いをしただろうが、 その中から得たことは悪いことばかりではないはずだ。 それを、これからの生き方や自分の将来、地域での生活 に生かし、次代に引き継ぐ人間になってほしい。